

■用意するもの

- スキージー：ステッカーを圧着するためのヘラ（車のスモーク貼りに使うもの）。
※定規や使用済みのプラスチック製カードなどでも代用可。
- 仮止めテープ：ステッカーを仮固定するためのセロテープやマスキング用の紙テープなど。
- クリーナー：貼る場所の汚れや油分を落とすための専用クリーナーや中性洗剤など。

■作業手順

- ・作業前に貼る面の汚れや油分をよく落とす。
- ・アプリケーションフィルムの上からステッカー本体部分を指で丁寧に圧着する。
- ・屋外作業には無風の日を選ぶこと（風があると作業が難しくなるので）。

1 台紙からステッカー部分を剥がす（※この手順は状態によっては不要）

台紙からステッカーを剥がして（もし、ステッカーのパーツが台紙に付いてきてしまったら、ゆっくりと台紙を少しだけ戻し、付いてきた部分を指で丁寧に押し付けるようにこすり、アプリケーションフィルムに接着するようにする。）

同封の別台紙へ再度貼り付け、余分な台紙はカットする。

※この際に図のように台紙の中心に1cm程度の切り込みを入れてその部分に余り台紙を貼り付けておく方法も場合によっては有効



中心を1cm程度カット

余り台紙を貼り付け

2 位置決めを行う

台紙、アプリケーションシートが付いたままの状態のステッカー上部をテープで仮止めする。（アプリケーション やステッカーにシワやタワミができないように注意する。）

少し離れた場所から眺めて位置やステッカーの傾きを確認（この時点で位置を決める）

1の※印の中心に切り込みを入れた場合は、同時に中心の余り台紙部分を剥がしてその部分を貼り付けておく

3 次に台紙だけを剥がす

仮止めしたステッカーを真上に持ち上げたら、片端からゆっくりと慎重にめくるように台紙を剥がす。

※ステッカー同士をくっつけてしまわないように注意。

1の※印の中心に切り込みを入れた場合で、同時に中心の余り台紙部分を剥がしてその部分を貼り付けた際は左右片方ずつ行うとより作業が容易。（この場合は、この時点で仮止めテープを剥がす）

4 ステッカーを固定する

スキージーで中央から左右に空気を抜きながらステッカーの上部から少しずつ固定していく。（ヘラ・タオル・指等でしっかりこすること。）

5 アプリケーションを剥がす

まずは、仮止め用のテープを剥がす。

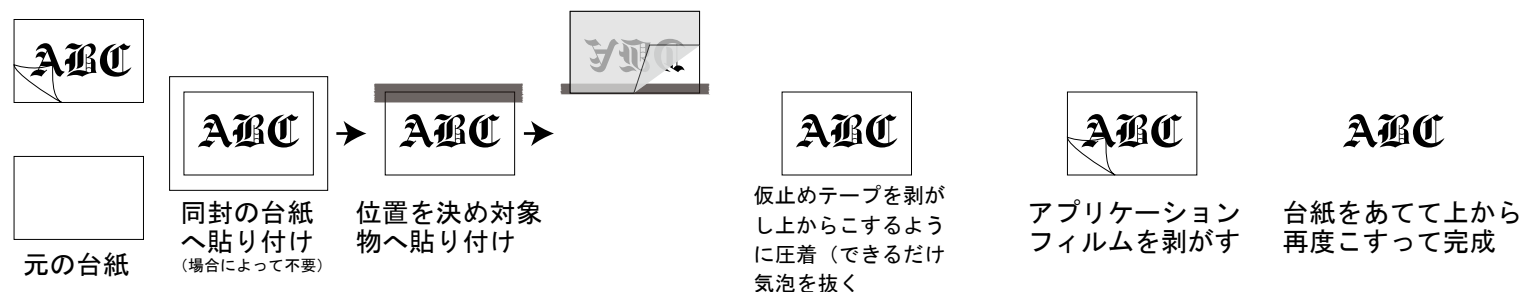
次にアプリケーションシートを剥がしますが、固定したステッカーパーツがアプリケーションに付いてこないように慎重にめくるようにする。

ステッカーパーツがアプリケーション側に付いて来てしまった場合、直ちにアプリケーションを戻して、その部分をよく再圧着してから再び剥がすこと。

6 仕上げ

アプリケーションシートを剥がし終わったら、先に剥がした台紙をあて、ヘラなどでしっかりこすってさらに圧着する。貼りつけ直後は接着力が十分発揮されていないため、この時点でしっかりと圧着すること。特に角部分とデザイン的に鋭利な部分や細かいパーツがあるものは、そこからはがれる可能性があるため、しっかりと圧着する。気温が低い日はドライヤーなどで適度に暖めると、さらにしっかりと圧着できる。気泡が入ってしまった場合でも、ほとんどの気泡は2～3日で自然に消える。ただ、1週間から1ヶ月くらいでかかる場合もあるので、貼しばらくは様子を見てからそれでも消えない気泡は針で穴を開けて空気を追い出さずこと。跡が残ってもそのうちに目立たなくなる。り付け後2～3日はむやみにいじらず、洗車なども避けること。

手入れする際は、角、小さな文字、鋭利なパーツをめくってしまわないように注意して、固く絞ったタオルなどで、上から叩くようにして汚れを落とすようにすること。



元の台紙

同封の台紙へ貼り付け
(場合によって不要)

位置を決め対象物へ貼り付け

仮止めテープを剥がし上からこするように圧着（できるだけ気泡を抜く）

アプリケーションフィルムを剥がす

台紙をあてて上から再度こすって完成

■用意するもの

- スキージー：ステッカーを圧着するためのヘラ（車のスモーク貼りに使うもの）。
※定規や使用済みのプラスチック製カードなどでも代用可。
- 霧吹き：ステッカーや基材（貼る場所）に水を張るために使う。
- 中性洗剤：霧吹きの水に2～3滴混ぜる。
水をはじく場合はさらに数滴混ぜる。混ぜる洗剤の量は、吹いた水が玉状にはじかれなくなる程度で。
あまり多く混ぜるとステッカーの接着力が弱くなり、ステッカーが貼り付くまで非常に時間がかかる可能性もあるので注意。
- タオル：余分な水分をふき取るためのもの

■作業手順

作業前に貼る面の汚れや油分をよく落とす。
また、台紙を剥がす時、ステッカーのパーツが台紙に付いてくるのを予防するために、アプリケーションフィルムの上からステッカー本体部分を指で丁寧に圧着する。この時に、アプリケーションフィルムがたわんだりしないように注意。また、屋外作業には無風の日を選ぶこと。
なお水貼りの場合は余分なアプリケーション部分をはさみ等で切り取っておくと作業が楽になる。

1 台紙からステッカー部分を剥がし、霧吹きで水をかける

始めに台紙からステッカーを剥がして（もし、ステッカーのパーツが台紙に付いてきてしまったら、ゆっくりと台紙を少しだけ戻し、付いてきた部分を指で丁寧に押し付けるようにこすり、アプリケーションフィルムに接着するようにする。）台紙を剥がしたら直ぐにステッカーの糊面にたっぷり水を吹きかける。（水を吹きかけると一時的に接着力がなくなるので作業がやり易くなる）
さらに、ステッカーを貼る場所にも、霧吹きで水をたっぷり吹きかける。（かけ残しがないようにたっぷり濡らすこと）
水をはじいてしまい、水滴が玉状になる場合は、中性洗剤の量を増やすとステッカーがくっつく失敗がなくなる。

2 貼る場所に剥がしたステッカーを置く

貼る場所がたっぷり濡れた状態になったらステッカーを置く。この時点ではステッカーが自由に動くので、位置を調整してください。
貼る場所に乾いた部分があるとステッカーが接着してしまい、位置調整が出来なくなるので注意。
気温の高い夏期などは、作業途中に水分が乾燥してステッカーが貼り付いてしまう場合があるので、霧吹きで水分を補充しながら作業する。

3 ステッカーを固定する

位置が決まったら、スキージーで中央から外側へ水と空気を追い出すように圧着する。この際しっかりと水分を追い出すこと。
スキージーでの圧着が終わったら、回りの余分な水分をタオルで拭き取る。
中の水分が乾燥するまで数時間休憩。
※冬季で低温な環境下では不向きであるが、ドライヤーで適度に暖めることができれば可能。

4 アプリケーションを剥がす。

数時間経過後、ステッカーが接着されているようであれば、最後にアプリケーションを剥がす。ゆっくり慎重にめくこと。
乾燥が充分でないと、ステッカーの接着力が弱く、アプリケーションに付いてくるので、さらに時間をおいてから作業する。
アプリケーションが剥がれたら、乾燥したタオルなどで上から叩くようにして、残った水分を吸収させる。

5 仕上げ。

アプリケーションシートを剥がし終えた状態のステッカーは、まだ完全に乾いていないためそのままの状態でも30分～1時間程度放置して、さらに乾燥させること。
乾燥が終わり、ステッカーが充分固定されたら、先に剥がした台紙等をあて、スキージーでしっかりこすって圧着する。
水貼りでは、ステッカーの接着力を一時的に弱めているため、完全に接着力が回復するまでに時間がかかることから、この時点でしっかりと圧着することで、接着力を高めることができる。低温な環境下では、再度ドライヤーなどで適度に暖めると、さらにしっかりと圧着できる。

